

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191800349		
法人名	株式会社めいと常陽企画		
事業所名	グループホームめいと草加		
所在地	埼玉県草加市谷塚1-29-1		
自己評価作成日	令和 5 年 12月 3 日	評価結果市町村受理日	令和 6年 2月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 6 年 1月 11 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 入居者お一人おひとりが残された能力を最大限に生かし、出来る限り今までに近い日常生活を送れるよう支援いたします。</p> <p>2. 対面キッチンで、調理の音や美味しそうな香りも感じられる家庭的で温かい食事を提供しています。</p> <p>3. 地域に開かれた施設を目指して、町内会の行事に参加しています。また、運営推進会議でもご家族様をはじめ町会長や副会長など地域の方々にも出席いただいています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小規模で暖かい雰囲気のある事業所である。法人と事業所の理念を重ね合わせ、常に入居者や家族の満足を最優先に支援に取り組んでいる。過去の慣例にとらわれず、日々変わる変化に素早く対応している。例えば、2階に居室のある入居者が階段昇降が危なくなってきたら、空いていれば、すぐ1階に移動して頂いている。また、地域との交流も深まっており、運営推進会議に町会長や町会副会長も参加して意見交換している。町内の美化運動にも参加してゴミ拾い等行っている。食事は職員が買い出しに出向き、栄養士に相談しながら献立を作り、温かい家庭料理を提供している。医療との連携についても、提携内科医の訪問診察の他精神科医も月1回来ている。法人内に訪問看護ステーションがあり、看護師が提携内科医に同行して健康管理に努め、夜間も24時間オンコールで安心の体制となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた運営方針を掲げるとともに、職員会議や毎日の申し送り等で共有、実践していけるよう心がけている。	法人の理念を事業所の理念として、入居者の満足を第一に、一人ひとりに寄り添い、慣習にとらわれず、その人の生活に合わせたケアを実践している。職員会議や申し送りで理念や情報を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを保つため、地元谷塚本町町会の活動や催しに参加すると共に、運営推進会議や事業所の行事等への参加をお願いし交流を図っている。	事業所の隣に町会長の自宅があり、町会に企業会員として参加している。地域の美化運動に参加したりして、近所との交流も深まっている。また、ボランティアも、地域の知り合いの紹介で、手品、歌、弾き語りなどを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	谷塚本町町会の定期総会に参加したり、美化運動などの地域の取り組みなどを通じて施設として支援出来るよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ終息後には、入居者の活動報告や意見交換だけでなく実際の食事等をして頂けるよう検討している。	対面での運営推進会議を再開している。町会長、家族、地域包括、本社管理者、施設長、ケアマネジャー等が参加している。コロナ禍での筋力低下を防ぐ体操等の現状報告や行事報告などをおこなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	草加市役所へは人員の余裕がなく足を運べていないが、市内のグループホームとの連携会議に参加している。	市の窓口担当者とは、顔なじみになっている。市主催の地域ケア会議が開催され、市内のグループホーム同士で、コロナ対応、ボランティアの活用など、情報交換している。また、県や市からくる研修には、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会開催を運営推進会議で報告している。また「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を全職員が正しく理解できるように努めている。	毎月、身体拘束適正化委員会を開催している。例えば、ベッド柵ではなく、センサーマットを入れ、低床ベッドに切り替える等工夫している。また、スピーチロックやドラッグロック等は、研修で、何が該当するか、情報交換しているが、現在スピーチロックなどはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会・虐待防止に関する社内研修を開催し、全員が高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設ける事で職員の虐待に対する意識を高め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議を通じて、成年後見人制度や地域福祉権利擁護事業等について学ぶ機会を設けると共に、個々の必要性について議論し、いつでも支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には入居及び家族に対して十分な時間を掛けて説明すると共に、疑問や不安に思う点を確認し理解と納得をえられるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所持や電話での近況報告時に、気楽に意見や要望を言える雰囲気づくりを心掛けている。	年1回法人本社にて利用者アンケートが実施され、問題点があればフィードバックされている。また、運営推進会議や家族の面会時に意見や要望を聞き取っている。最近では、コロナ禍で面会がガラス越しだったので、面会再開を喜んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝夕の申し送り時、昼食時等において気軽に意見・提案が出来る環境づくりを行っている。また良い意見や提案については全職員で情報共有すると共に運営に取り入れるよう努めている。	年2回法人本社にて職員向けアンケートが実施されている。月1回の会議で、職員から意見や要望、提案がある。入居者のケアに関する改善や、職員の休憩時間の取り方等、様々な意見が寄せられ、運営に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業目標に対する職員一人ひとりの貢献度を適正に評価している。又、向上心を持って働けるよう外部研修へ参加させると共に、研修で学んで内容を社内会議などで発表する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験や能力に応じて外部研修を受ける機会を提供している。又、一年間のテーマごとに毎月担当を決め社内研修を行いそれぞれの理解を深める機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる「グループホーム連絡会」(市内の全グループホームで構成されている)に参加予定。又地位包括が主催するリモートにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活状況、要望などを本人はじめ家族からも聞き取り、施設での生活に生かすよう取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には、いつでもどんな些細なことでも質問できるような雰囲気づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望や現状を踏まえ、ケアマネや全職員で支援の方向性を話し合っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事は協力してもらおう事を前提に。日常生活を共に楽しみ喜びを分かち合い共同生活をする仲間としての関係を構築していく。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問しやすい雰囲気づくりに努め(コロナ終息後には)している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が気軽に訪問しやすい雰囲気づくりに努め(コロナ終息後には)ると共に家族の協力を得て、入居者に以前と変わらない生活リズムが送れるよう支援している。	コロナ禍では、知人、友人等の来訪は、途絶えていた。最近は、親しくしていた入居者を訪ねて来る人もいる。また、家族が来訪して、一緒に食事や買い物に出かける入居者もいて、以前の生活に戻りつつある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を把握し、お互いが尊重しあい支えあえるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の希望や思いを把握し、少しでも希望に添えるよう支援していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者やご家族との会話を通じて、希望や思いを把握し、入居者の一人ひとりが自分らしく生活できるよう支援している。	契約時、自宅へ訪問して、本人や家族から過去の生活歴、趣味や嗜好等聞き取っている。入居してからは、日々の会話の中から、やりたいこと、好きな食べ物等確認しながら支援している。困難な場合は、表情や仕草から判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの環境、生活歴や馴染みの暮らし方を本人や家族の話より把握し、適切な支援に繋がるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや日々の記録を通じて一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の日々の生活や面会時の家族との会話の内容から意見や要望を把握すると共に、協力機関や運営推進会議等で意見交換を行い、介護計画を立てていく。	ケアカンファレンスは、その都度、ケアマネジャーが、職員から現場の入居者の状況を聞きながら、情報交換している。また、ケア記録、申し送りなども参考にして、特記事項や医療情報などを聞き取り、みんなで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの個別記録(日々様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を)記録して、それをもとに情報共有の徹底及び介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人系列のグループホームや地域関係機関、谷塚本町町会等と有機的連携を図り、多様なニーズに対応できる体制づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	草加市や社会福祉協議会から情報収集すると共に、町会や民生委員、ボランティア等を資源にして積極的な交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について確認し、本人の意見や希望を尊重しながら、入居者一人ひとりが適切に受診できるよう配慮している。	提携内科医が月2回、精神科医が月1回訪問診察に来ている。訪問歯科も毎週、また、法人内の訪問看護も、提携内科医と同行し、24時間オンコールで対応している。その他の受診は、家族が同行するが、無理な時は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間365日オンコールで繋がり、適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の関係者と日常的に情報交換を行い、良好な関係を気づけるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重症化した場合の事業所の対応、本人・家族の希望について十分な話し合いを行っている。状態の変化については、協力医療機関、主治医、家族と情報共有を行っている。	契約時、重度化した時に事業所で出来ること、出来ないこと、どこで終末を迎えたいかなど確認している。重度化してきたら、主治医を中心に、家族と事業所側で打ち合わせを重ねている。看取りをおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修・訓練を行うことにより、全職員が急変や事故発生時に冷静な対応が出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、近隣住民に参加をお願いすると共に、社内研修等で、冷静な対応が出来るよう努めている。	年2回の避難訓練を実施している。法人本社の消防署長経験者から、事業所独自の避難計画作成が指示され、近隣住民の参加もお願いしている。備蓄については、飲料水、アルファ米、紙コップ、防護服、マスク等、2階に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの確保について定期的な研修を行い、職員の対応の更なる向上に努めている。	大切な書類は鍵のかかるロッカーで管理し、パソコンは事業所とケアマネジャーのみ使用。防犯カメラも設置している。また、プライバシーの保護研修も徹底している。浴室やトイレはドアやカーテンで仕切り、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者が自分で出来る事出来ないこと。わかる事わからない事を配慮した役割や、楽しみ事を提供出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合を優先することなく、入居者一人ひとりの生活のペースを尊重して、本人の希望に沿った生活が出来るように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参したお気に入りの衣類や小物を身に付けられるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事となるよう、入居者の意見要望を取り入れながら、手作りを基本とした家庭的な食事を提供している。又、食事の準備や後片付け等入居者の出来る範囲で手伝ってもらっている。	献立は職員が作り、本社の栄養士が相談にのっている。出来る人はテーブル拭きや片付けを手伝っている。キッチンがリビングの一角にあり、クリスマスやおせちなど季節を感じる手作りの食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの一日の栄養摂取や水分摂取量を把握し、日々の心身状態に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医療機関の指導の下、食後ブラシや実情にあったケアを推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや介助を通じて日々の排泄状況を確認しながら、入居者一人ひとりの特性に合わせた自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導している。トイレでの排泄を基本としている。夜間は、自分で行ける人、ポータブルトイレ使用の人もある。廊下、トイレ前には防犯カメラを設置して安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の入居者の状況に合わせて、食後の運動を取り入れたりしながら自然な排泄に繋がるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴日を設定しているが、入居者の希望や状況に合わせて柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本としているが、体調や本人の希望により日にちを変えたりして、無理強いほしないようにしている。浴室にお湯の暖簾を掲げて、ゆずやしょうぶ湯を楽しんでいる。職員と1対1で会話も弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の行動パターンを観察し、各自の生活習慣を尊重しながら、状況変化に柔軟に対応できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりが使用している薬の効能・用法・用量、副作用等について全職員が理解したうえで、状況の変化を確認しながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの生活習慣や嗜好を尊重し、より快適な日々が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて日常的に戸外へ出られるよう支援している。町内に協力してもらい向かいの遊歩道にベンチを設置してもらっている。また、本人の希望に沿って家族の協力が得られるよう支援している。	コロナが収束してきて、天気の良い日は、近所を散歩している。向かいの遊歩道にあるベンチで外気浴も楽しんでいる。コロナ禍前は、家族も参加して、みんなで外食したり、お花見に行ったりしていた。家族が来訪して、一緒に食事や買い物を楽しんでいた。	コロナ禍で外出が出来なかった。これからは、歩行訓練等を行い、お花見や紅葉狩り等季節を感じる外出を再開したり、近所に買い物にも行ける支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりが心身状態や希望に応じて、買い物ができるよう支援している。(職員代行主)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	原則、相手の承諾があれば、電話や手紙のやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間においては、入居者同士が雑談できるよう椅子やソファを設置し、季節を感じられる飾りつけを行っている。	リビングは、南向きで明るい。エアコン、加湿器、空気清浄機も設置されていて、快適な空間である。リビングの一角に、キッチンがあり、食事の気配や匂いが伝わり、生活感が伝わってくる。壁には、季節を感じる、大判の正月カレンダー等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の入居者の気配は感じられるも、一人になれる場所を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、馴染みの物や使い慣れたものを置き、本人が暮らしやすいよう配慮している。	エアコン、ベッド、クローゼットは、備え付けられている。テレビやクリアケースなど無料貸出もしている。また、在宅の延長であり、自宅で使っていた物、趣味の物など馴染みの物は、何でも持ち込んで頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人がいきいきと過ごせる時間として、得意分野活動を日々の施設内活動で持てるよう支援している。		